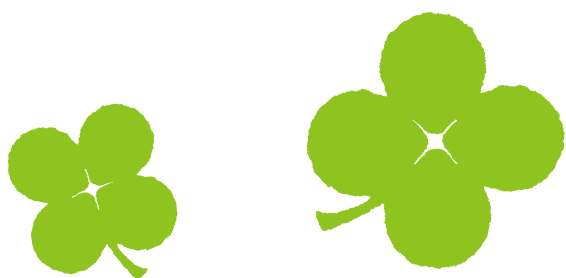
いわて県民計画

（2019～2028）

東日本大震災津波の経験に基づき、
引き続き復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

岩手県

計画の理念

　この計画では、「いわて県民計画」の成果を引き継ぎつつ、県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進めていきます。

　そのためには、県はもとより、県民、企業、NPO、市町村など、地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持って、共に支え合いながら、地方の暮らしや仕事など、岩手県の将来像を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくことが大切です。

　また、社会的に弱い立場にある方々が、地域や職場、家庭などでのつながりが薄れることによって孤立することのないように社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の観点に立った取組を進めることも重要です。

岩手は今（現状認識・展望）

世界の変化と展望

- 経済・社会のグローバル化や第4次産業革命が進展しています。
- 地球温暖化が進行しています。
- 資源・エネルギー、食料の需要が急増しています。

日本の変化と展望

- 急速な人口減少と高齢化の進行は、社会保障制度や経済活動、社会生活などに様々な影響を及ぼしています。
- 「心の豊かさ」や「ゆとり」といった要素を重視する層が拡大しています。

岩手の変化と展望 ～復興、「強み・チャンス」と「弱み・リスク」～

- 岩手県の総人口は、自然減と社会減があいまって減少局面にあります。人口減少対策を進めていく上では、様々な「生きにくさ」を「生きやすさ」に転換していくことが重要です。
- 東日本大震災津波からの復興に引き続き取り組んでいく必要があります。また、日本そして世界の防災力の向上に貢献できるよう、東日本大震災津波の事実を踏まえた教訓を伝承し、復興の姿を国内外に発信していくことが求められます。

基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

基本目標の考え方

- ◆　この計画は、東日本大震災津波からの復旧・復興の取組の中で、学び、培った経験を生かすものとします。
- ◆　この計画のもと、引き続き復興に取り組み、一日も早い安全の確保、暮らしの再建、なりわいの再生を目指すとともに、東日本大震災津波の教訓を未来に向けて伝承・発信していきます。
- ◆　また、復興の実践で培われた一人ひとりの幸福を守り育てる姿勢を復興のみならず、県政全般に広げ、県民相互に、さらには、岩手県と関わりのある人々がお互いに幸福を守り育てる岩手を実現します。
- ◆　そのような岩手が、全ての県民が希望を持つことのできる「希望郷いわて」になります。

復興推進の基本方向

三陸のより良い復興（Build Back Better）の実現に向けた取組を推進していきます。

「東日本大震災津波からの復興に向けた基本方針」に位置付けた2つの原則「被災者の人間らしい『暮らし』『学び』『仕事』を確保し、一人ひとりの幸福追求権を保障すること」、「犠牲者の故郷への思いを継承すること」を引き継ぎ、この計画に基づく政策の推進や地域振興の展開と連動しながら、取組を推進していきます。

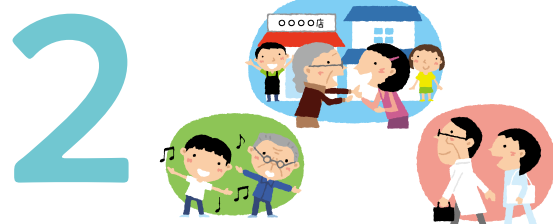
復興の目指す姿　いのちを守り　海と大地と共に生きる　ふるさと岩手・三陸の創造

復興の推進に当たって重視する視点

1 参画　～若者・女性などの参画による地域づくりを促進します～
2 交流　～人やモノの交流の活発化による創造的な地域づくりを促進します～
3 連携　～多様な主体が連携し、復興などの取組を推進します～

「より良い復興～4本の柱～」と取組方向

1 安全の確保

津波により再び人命が失われることのないよう、多重防災型まちづくりや災害に強いライフラインの構築などにより、災害に強く安全で安心な暮らしを支える防災都市・地域づくりを推進します。
また、災害に強い交通ネットワークを構築し、住民の安全を確保します。

2 暮らしの再建

住宅や仕事の確保など、被災者一人ひとりの生活の再建を図ります。
また、医療・福祉・介護体制など生命と心身の健康を守るシステムや教育環境の再構築、地域コミュニティ活動への支援などにより、地域における生活の再建を図ります。

3 なりわいの再生

生産者や事業者が意欲と希望を持って生産・事業活動を行えるよう、生産体制の構築、金融面や制度面の支援などにより、農林水産業、商工業など地域産業の再生を図ります。
また、地域の特色を生かした商品やサービスの創出、高付加価値化や生産性向上などの取組を促進するほか、新たな交通ネットワークによる物流効果を生かして地域経済の活性化を図ります。

4 未来のための伝承・発信

日本を代表する震災津波学習拠点として東日本大震災津波伝承館を整備し、東日本大震災津波の事実を踏まえた教訓を伝承し、その教訓を防災文化の中で培っていきます。
また、復興の姿を国内外に発信することにより、将来にわたり復興への理解を深めていきます。

政策推進の基本方向

「10の政策分野」のもと 一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開していきます。

県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、多様性の視点や社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点を重視しながら、地域社会を構成するあらゆる主体とともに、「10の政策分野」の取組を展開していきます。

1 健康・余暇分野

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手を目指します。

2 家族・子育て分野

家族の形に応じたつながりや支え合いが育まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手を目指します。

3 教育分野

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手を目指します。

4 居住環境・コミュニティ分野

不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手を目指します。

5 安全分野

災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手を目指します。

6 仕事・収入分野

農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手を目指します。

7 歴史・文化分野

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手を目指します。

8 自然環境分野

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手を目指します。

9 社会基盤分野

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手を目指します。

10 参画分野

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手を目指します。

新しい時代を切り拓くプロジェクト

新しい時代を切り拓く11のプロジェクトを掲げ戦略的、積極的に推進していきます。

10年後の将来像の実現をより確かなものとし、さらに、その先を見据え、長期的視点に立ち、岩手らしさを生かした新たな価値・サービスの創造などの先導的な取組を進めていきます。

1 ILCプロジェクト

国際リニアコライダー（ILC）の実現により、世界トップレベルの頭脳や最先端の技術、高度な人材が集積されることから、イノベーションを創出する環境の整備などを進めることにより、知と技術が集積された国際研究拠点の実現を目指します。

2 北上川バレープロジェクト

県央・県南広域振興圏にまたがる北上川流域において、広域的な連携の更なる促進や、第4次産業革命技術のあらゆる産業分野、生活分野への導入などを通じ、働きやすく、暮らしやすい、21世紀の先行モデルとなるゾーンの創造を目指します。

3 三陸防災復興ゾーンプロジェクト

東日本大震災津波からの復興の取組により大きく進展したまちづくりや交通ネットワーク、港湾機能などを生かした地域産業の振興を図るとともに、国内外との交流を活発化することで、岩手県と国内外をつなぐ海側の結節点として持続的に発展するゾーンの創造を目指します。

4 北いわて産業・社会革新ゾーンプロジェクト

特徴的な産業の振興や交流人口の拡大、再生可能エネルギー資源の利用促進など、北いわてのポテンシャルを最大限に発揮させる地域振興を図るとともに、人口減少と高齢化、環境問題に対応する社会づくりを一体的に推進し、持続的に発展する先進的なゾーンの創造を目指します。

5 活力ある小集落実現プロジェクト

人や地域のつながりが大切にされている岩手県の風土を土台としながら、第4次産業革命技術や遊休資産を生かした生活サービスの提供、人材・収入の確保、都市部との交流の促進など、住民主体の取組の促進を通じて、活力ある地域コミュニティの実現を目指します。

6 農林水産業高度化推進プロジェクト

情報通信技術（ICT）やロボット等の最先端技術を最大限に活用した生産現場のイノベーションによる飛躍的な生産性の向上、農林水産物の新たな価値の創出等の取組を通じて、農林水産業の高度化を推進し、収益性の高い農林水産業の実現を目指します。

7 健幸（けんこう）づくりプロジェクト

県立病院・大学等で保有する医療データや健診機関で保有する健診データ等を生かし、健康・医療・介護データを連結するビッグデータの連携基盤を構築し、その活用を通じて、健康寿命が長くいきいきと暮らすことのできる社会の実現を目指します。

8 学びの改革プロジェクト

人工知能（AI）をはじめとする第4次産業革命技術を活用し、就学前から高校教育までの質が高く切れ目のない教育環境の構築を通じて、新たな社会を創造し、岩手県の未来をけん引する人材の育成を目指します。

9 文化・スポーツレガシープロジェクト

岩手県が誇る世界遺産や多彩な民俗芸能、文化芸術・スポーツへの関心の高まりを、次の世代につなげていくため、官民一体による推進体制の構築などにより、県民が日常的に文化芸術やスポーツに親しみ、楽しみ、そして潤う豊かな社会の実現を目指します。

10 水素利活用推進プロジェクト

岩手県の豊富な再生可能エネルギー資源を最大限に生かし、再生可能エネルギー由来の水素を多様なエネルギー源の一つとして利活用する取組を通じて、低炭素で持続可能な社会の実現を目指します。

11 人交（じんこう）密度向上プロジェクト

第4次産業革命技術を活用して、岩手県の地域や人々と多様に関わる「関係人口」の質的・量的な拡大を図り、世界中がいつでも、どこでも岩手県とつながる社会を実現し、関係人口の継続的かつ重層的なネットワーク形成などによる「人交密度」の向上を目指します。

地域振興の展開方向

住民に身近なサービスは、市町村が担うことを基本としつつ、より広域的な視点から、4広域振興圏の振興を進めるとともに、県民一人ひとりの幸福を守り育て、持続可能な地域社会を築いていくため、各地域の特性を十分に踏まえた取組を進めていきます。

県央広域振興圏

【目指す姿】

県都を擁する圏域として、産業・人・暮らしの新たなつながりを生み出す連携の深化により求心力を高め、東北の拠点としての機能を担っている地域

県北広域振興圏

【目指す姿】

多様かつ豊富な資源・技術、培われた知恵・文化を生かし、北東北、北海道に広がる交流・連携を深めながら、新たな地域振興を展開する地域

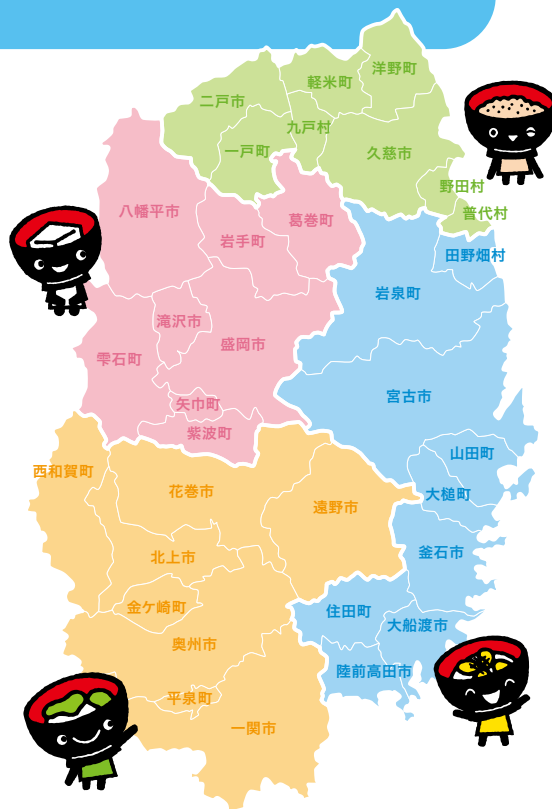
県南広域振興圏

【目指す姿】

人とのつながり、県南圏域の産業集積や農林業、多様な地域資源を生かしながら、暮らしと産業が調和し、世界に向け岩手の未来を切り拓く地域

沿岸広域振興圏

【目指す姿】

東日本大震災津波からの復興を着実に進め、その教訓を発信し、新たな交通ネットワークや様々なつながりを生かした新しい三陸の創造により、国内外に開かれた交流拠点として岩手の魅力を高め、広げていく地域

行政経営の基本姿勢

県は地域を担う主体の一つとして、推進力となる人と人、人と地域資源をつなぎ、県民一人ひとりが主役の地域づくりを支え、岩手全体の底力を高め、地域の力が最大限発揮されるよう県民とともに歩む行政を目指していきます。

また、復興の過程で学び、培った経験をもとに、県民一人ひとり、そして社会としてお互いに幸福を守り育てるとともに、広く県外に向けて誇れる岩手の実現を目指し、行政経営の質の向上に取り組みます。

以上の認識のもと、県民の信頼に応える、より質の高い行政経営を進め、この計画に掲げた政策の実効性を高め、東日本大震災津波からの復興と「希望郷いわて」の実現に貢献していきます。

目指す姿　県内外の様々な主体と協働し、岩手県民が相互に幸福を守り育てるとともに、広く県外に向けて幸福を守り育てる機会を提供することができる岩手の実現

「4本の柱」と取組方向

1 地域意識に根ざした県民本位の行政経営の推進

2 高度な行政経営を支える職員の能力向上

3 効率的な業務遂行やワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境の実現

4 戦略的で実効性のあるマネジメント改革の推進

詳しくご覧になりたい方はこちらから！

いわて県民計画(2019～2028) 検索

https://www.pref.iwate.jp/kensei/seisaku/suishin/1018014/index.html